

日刊鉄鋼新聞に掲載していただきました

□ 2022年5月9日（月）の日刊鉄鋼新聞に掲載していただきました

（第三種郵便物認可） 令和4年（2022年）5月9日（月曜日）



フォトスポットをはじめブースの随所に趣向を凝らす

富安金属印刷

デジタル技術で高付加価値サービス

富安金属印刷（本社：埼玉県草加市、社長：菊井治氏）は、新たな金属印刷の市場開拓に乗り出している。デジタル技術を駆使して、これまで主流の大量生産が基本となるオフセット印刷と並行し、1缶から作成可能なインクジェット印刷に対応。アプリケーション缶に馴染みが薄かったユーザーとの接点を醸成し、高付加価値なサービスの提供に取り組んでいる。

独自の社内システムを構築した。本社工場でインクジェット印刷機が動き出す中、高山さんと横山さんはターゲット層の照準を広くに定めた。次代を担う金属印刷技術として、既存と異なる商流の確立を念頭に、自ら付加価値あるマーケットを掘り起す道を選んだ。

同社がインクジェット印刷に関わりをもったのは2012、13年ころ。技術本部の高山聖一さんと営業部の横山明男さんを中心に、試行錯誤を重ね、知見を積み重ねた。世界的4大印刷機材展の「DIGAS2018」への出展を機に、インクジェット印刷の本格導入に向けた環境整備を加え、小ロットで受注できる

「デジタル技術で高付加価値サービス」

独自の社内システムを構築した。本社工場でインクジェット印刷機が動き出す中、高山さんと横山さんはターゲット層の照準を広くに定めた。次代を担う金属印刷技術として、既存と異なる商流の確立を念頭に、自ら付加価値あるマーケットを掘り起す道を選んだ。

昨年11月にはEC（電子商取引）サイト「わたしの缶工房」をオープン。「アイテムをつくる」と「アイテムを探す」から希望するコンテンツを選び、ペール缶（高さ365ミリ、直径305ミリ）の外周に1缶から

3Dプリンターで製作した金型による缶蓋

デジタル技術で高付加価値サービス

独自の社内システムを構築した。本社工場でインクジェット印刷機が動き出す中、高山さんと横山さんはターゲット層の照準を広くに定めた。次代を担う金属印刷技術として、既存と異なる商流の確立を念頭に、自ら付加価値あるマーケットを掘り起す道を選んだ。

インクジェット印刷起点 小ロットの受注拡大

「缶蓋を扱ったことがないユーザーは多く、豊富なラインアップの缶蓋器に対する来場者の反響は大きい。確かに手応えとともに「フリキを使おう」との思いを共有し、スポーツやペットの分野などを中心に着実に実績を上げている。

昨年11月にはEC（電子商取引）サイト「わたしの缶工房」をオープン。「アイテムをつくる」と「アイテムを探す」から希望するコンテンツを選び、ペール缶（高さ365ミリ、直径305ミリ）の外周に1缶から



3Dプリンターで製作した金型による缶蓋

デジタル技術で高付加価値サービス

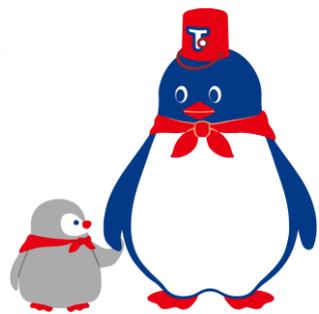
独自の社内システムを構築した。本社工場でインクジェット印刷機が動き出す中、高山さんと横山さんはターゲット層の照準を広くに定めた。次代を担う金属印刷技術として、既存と異なる商流の確立を念頭に、自ら付加価値あるマーケットを掘り起す道を選んだ。



立体的に仕上がりを確認できるシミュレーター機能も保有する

独自のデザインをプリント「トミー」で、展示やSNS（インスタグラム、ツイッター）の公式アカウント入によって「クライアント」にも登場。社員の名刺に刷り「製缶会社」印刷会社という従来の商流に「クライアント」印刷会社、個人ユーザーを想定する一方、シミュレーター機能は企業が大量作成するケースなどでサンプルの代わりに活用してもらおう。

ECサイトのコンテンツでは、2匹のペンギンが連年のプログラムを誘導する。同社の公式キャラクター「トミペン」と「リトルペン」が、高山さんと横山さんが兼務で始めたインクジェット印刷をめぐる新事業は、前年を超える受注量で注目を集めている。このほか、営業開発部に専任を配属。今年4月からは大阪（千葉市川市）の協力を得るなど、インクジェット印刷の生産性を高めるべく、限られた数に絞って増産を図った。ECサイトにラインアップした缶蓋器でも、数に絞って増産を図った。ECサイトにラインアップした缶蓋器でも、数に絞って増産を図った。



『インクジェット印刷技術』『小ロット受注拡大』『会社公式キャラクタートミペン』
様々なことを、取り上げていただきました。ありがとうございました。